

国 語 部 会

研究主題

言葉をとおして学び方を学び、
生かす指導方法の工夫

期 日 平成23年11月25日（金）
会 場 東かがわ市立本町小学校
参加人数 250名

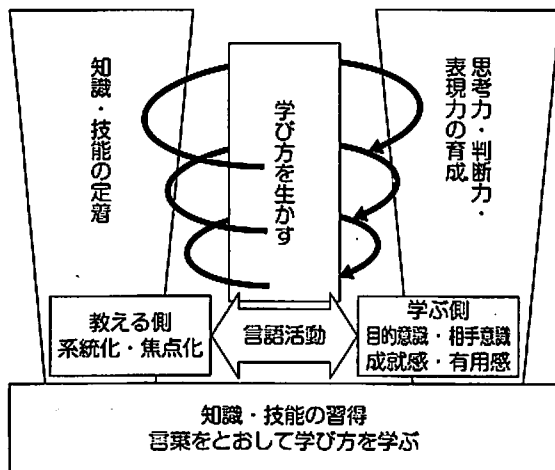
1 研究主題について

「学び方を学ぶ」とは、ジャンルや領域に応じた読解や表現の手法を身に付けることである。単に教材文を読んでそこに書かれている内容を理解するだけでなく、教材文をとおして、別の文章でも使える「学び方」を学ぶということである。

「学び方を生かす」とは、実生活につながる表現の場を設定することで、児童が身に付けた手法を生かし、自らの課題解決に向けて思考を深められるように工夫することである。

国語科学習において、学習者が関心意欲を高め、読解や表現の知識・技能を確実に習得し、それらを活用していける力の育成こそが重要であると考え。そこで、言語による活動を行っていくための学びの方法の習得（学び方を学ぶ）と、主体的な学習となるための言語による学習の工夫（学び方を生かす）に重きを置き、この研究主題を設定した。

本校の研究主題は、「習得と活用の有機的な関連」を意図して設定している。



2 研究内容

(1) 研究の視点

- ① 「読む」「書く」「話す・聞く」を関連させた言語活動の充実
- ② 学習指導におけるスキル教材の工夫と活用
- ③ 言語感覚を養うための言語環境の整備と他教科等との関連

学年の目標

- 低学年…楽しみながら言葉を学習できる子どもの育成
- 中学年…相手や目的を明確にして、表現したり考えたりできる子どもの育成
- 高学年…目的や意図に応じて表現を工夫したり、考えを深めたりできる子どもの育成

(2) 研究発表会

① 公開授業

学年	授業者	単元名	領域関連
1年	砂川 彩	おき入りのチロをしようかいしょう	読む 書く
2年	佐藤ゆかり	分かりやすくてたえよう、とっておきのはつ明ひん	書く 読む
3年	國方 愛美	「民話のおもしろさ伝え隊 (たい) になって、世界の民話をしようかいしょう	読む 書く
4年	細川 尚人	「ゆめのロボット発明書」を作ろう	読む 書く
5年	松村 和仁 山下 智	テレビ番組編集会議を開こう	読む 話す・聞く
6年	島岡 幸代	「なるほど日本語大全集」を出版しよう	読む 書く

② 授業分科会

- 低学年部会の指導から
無理のない言語活動を組み、並行読書で読書を楽しむ子どもを育てている。きめ細かな手だての中でも、モデル文提示は書ける子を育てるための効果的な支援となっていた。
- 中学年部会の指導から

言語活動の設定は、活動が目標となっているので、児童によく分かる。「書くこと」と「読むこと」をつなげた複合單元における関連指導の中で、子どもに付けたい力が明確にされていた。

○ 高学年部会の指導から

単元を貫く言語活動により、子どもが主体的に活動できていた。「ながら学習」や「擬似体験」で子どもたちと文章を近づける「意図的な単元化」であった。

③ 課題別分科会

○ 1年部会の指導から

伝えたい相手を設定するのは、とても効果的である。聴写や視写も常時取り入れてほしい。

○ 2年部会の指導から

シリーズ読書は、読むことを確立するねらいがある。「ふたりはともだち」のシリーズ読書は並行読書に最適な教材であり、しっかり教材研究を進めてほしい（水戸部調査官より）。

自信を付け、思考を広めるためのペア交流の良さ、読みを深めるための発問の良さを参考にしてほしい。

○ 3年部会の指導から

子どもが次の作品を読むための力となっているかという視点で考える。比べることによって分かることが多い。同時に比べたり、一つをしっかりと理解して比べたりといった様々な方法がある。

物語の学習では、生き方についてなどを国語科の中でどう取り扱うのが大切になってくる。

子どもたちが自分の学習を自覚（メタ認知）できるようにさせたい。

○ 4年部会の指導から

国語科は、内容と方法の二重構造の中で、書き方という方法をとおして教える教科である。活用のためには、一時的な体験を二次的言葉に変え、抽象化すること。

○ 5年部会の指導から

どんな力をどんな言語活動でどこまで育てるのかを明確に持っておく。「書

くことは好きか」ではなく、「大切か」と問い、子どもに意味付けを行う。単元の振り返り・まとめを大切にしたい。

○ 6年部会の指導から

「出口」を子どもたちにつかませ、目的意識を持たせた並行読書をさせたい。

④ 全体会

○ 文部科学省教科調査官水戸部修治先生の講演から

国語科における言語活動の充実のためには、①本単元で付けたい力を見極める②付けたい力にぴったりの言語活動を選ぶ③単元を貫いて位置付ける④「大好き」「はてな」「伝えたい」を生かす。

ねらいが違えば、言語活動も違う。

二次でもゴールを意識できるようにし、子ども主体の言語活動を選ぶ。

3 成果と課題

(1) 成果

○ 言語活動の充実のために、①目的意識や相手意識をもたせた、単元を貫く言語活動の設定②学習指導要領の系統に対応した言語活動の分析と指導事項を関連させた有効な言語活動の設定③「わかる・できる・楽しい」言語活動になるための1時間の学習における支援のあり方の3点について、研究を深めることができた。

○ スキル教材の作成・活用により、授業に直結する具体的で効果的な支援活動となり、児童が学び方を焦点化して学び、生かす指導につながった。

(2) 課題

○ 系統表をもとに児童の学ぶ力を高めるための学習計画や、6年間を通しての言語活動のプランを見直す必要がある。

○ スキル教材については、他教科等での活用を含め、計画的な活用を図っていく。

○ 児童参加型の掲示を増やし、言葉に対する興味・関心を高めていく。

○ 国語科との関連を整理し、他教科等における言語活動を更に充実させたい。